

はいっても、四十五分の授業時間中みんなといっしょの学習態度がとれない子どももいるとき。こんなことではよき人づくりはできない。やはり、その時期でなければできないしつけがある、ということをお肝にめいじて、道徳的心情や態度の育成につと

めなくてはなるまい。このことが围づくりをなす根幹であると思う。

一方理想の人間像というのは、社会の要求や時代の推移と変転によってちがって行くので、教師は現代社会に対する深い洞察力と見通しをもってあたらなくてはならな

い。

結論的にいえば、新しい人間を育てようとするためには、それにふさわしい生活のしかたを、順序をおって育てていかなければいけないということである。

(千代田区立芳林幼稚園)

友田静恵氏の

所論についての感想

津 守 真

友田静恵氏より、右のような文をいただいたので、私もいささかそれについて感想を付け加えることをおゆるしいただきたいと思う。

最近言われるようになった人づくりというところが、青少年問題に対する健全な政策を推進させることに役立つならば、大へん結構なことだと思うし、また、幼児期の教

育がこれらの一連の問題の基礎をなすことについては私も異論はない。この機会に、大いに衆智を集め、予算をとって、児童問題や乳幼児対策が一步前進することを願っている。

ただ、いちいちの問題についての具体的な考え方や、方法については、大いに研究して進めなければならぬと思う。たとえ

ば、いわゆる現代っ子が自己主張が強く他を顧みないという傾向があるとしても、その理由として、戦前には家庭できびしいしつけをしていたが、戦後にアメリカの教育思潮が強くなり、自由主義教育が徹底したために望ましくない傾向がいろいろとあらわれてきたのだというように、かんとんに解釈しては誤まりである。まして、だから



もときひしいしつけを徹底しなければいけないというように結びつけたら、まちがいである。そもそも、きびしいしつけということは、どういう内容をもつのかということに問題があるが、親や先生の意志が子どもの意志と衝突した場合に、親や先生がこうさせるべきだと考えたことを、叱ったり罰を加えたりしても通すというように解釈するならば、それは教育上ずいぶん問題がある。親や先生にも場面の誤認はあるし、また子どもの側には子どもなりの理由がある場合も多いので、子どもに対する同情ある認識と理解に立って子どもの納得のもとに指導がなされなければ、子どもは親や先生との連帯感を失ってしまう。連帯感が失われるところに、反社会的な行動や反抗があらわれてくる。現代の青少年非行の増加ということも、戦後の自由主義教育の所産と言ってしまうことはできない。家庭教育の面から考えるならば、放任と、子どもに対する理解の欠如こそ非行の原因と指摘せねばならないところである。そして親の気ままに、あるときは叱ったり、あるときはおだてたり、そして家庭の温い団らん

を欠いているところに、子どもの非行の芽がある。そしてその背後には、親自身の精神的支柱の欠如による自信のなき、家庭の価値観の崩壊が問題なのである。このような地盤の上に、きびしいしつけを強調したら、それこそ人間形成の上でもっと問題が出てくると思う。親自身がまじめに生きようとし、子どもとともに毎日の生活を歩もうとして、温かい人間関係を保ってゆくならば、その子どもは自分勝手な人間にはならないだろう。

それからここに掲げられている理想像であるが、いずれも結構なもので、本来重要なものである。それでは、勇氣、自由、有能、創造力というようなものがどうやって養われるかという点、これはいわゆるしつけによるものではないだろう。これはいづれも、子ども白らが経験し、自分でかちとってゆかねばならないものである。先生が教示することによってつくられるものではない。先生は子どもがこのようなことを経験するであろう場面を提供し、そのような方向に励ますことはできるけれども、ことばで教えることは困難である。そして、勇

気や有能、創造力をもっとも多く経験する場面というのは、幼児の場合には、砂や積みやこっこ遊びなどの遊びの場面である。子どもが他の子どもと一しょに、材料を駆使して力一ばい遊んだり、ものをつくらたりする経験の中に、力強く外の世界に対処する態度が養われてゆくのである。自分の遊びに没頭する経験をもたなかった子どもは、必要なときに注意を集中することのできない子どもであろうと思う。最後に、自由の解釈について 自由とは好き勝手にということではない、あることがらに馴れて、習熟するときには、子どもはそれに積極的に参加して活動することができ、これが自由の状態である。幼稚園では自由な時間とそうでない時間との明確な区別はないと思う。自由な遊びの中に勇氣や規律を学ぶ機会があり、ともに生活する中に、子どもの積極的な参加を必要としている。

少しく舌たらずになつてしまつたが、一言感想を付け加えさせていただきます。

*

*